

第2回 HPCI コンソーシアムシンポジウムを下記要領で開催いたします。

申込みは後日改めて広報いたしますので、ご参加検討ください。

名称：第2回 HPCI コンソーシアムシンポジウム

サブタイトル：「京」から「富岳」へ 何が変わり何ができるのか？

日時：2019年11月1日（金） 10:00-12:00

場所：品川グランドホール

参加対象者：HPCI システム利用研究課題の参加者および計算科学に関心を持つ一般の研究者

申込み：後日ホームページに掲載および HPCI コンソーシアム会員へはメールでお知らせします。

シンポジウムの主旨：

日本のフラグシップ機が「京」から「富岳」へ移行する中、従来の計算科学オリエンテッドな手法だけでなく、AI や機械学習などデータ科学的なアプローチが、サイエンスをはじめとしてエンジニアリングや医療、教育など多岐にわたる分野に広がりつつあり、計算機利用の状況は多様かつ分野融合的になってきている。このような過渡期に、今後の計算科学とデータ科学の双方の研究開発の方向性を議論し、新しい分野を模索する議論を行い、情報共有を図る。

シンポジウムの構成：

基調講演（20分×3名）

石川裕（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）

三好建正（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）

小石正隆（横浜ゴム理事）

パネルディスカッション： データサイエンスと HPC の協同という観点から

モデレータ：朴泰祐（筑波大学 教授）

パネラ：

三好建正（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）

佐藤賢斗（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）

奥野恭史（京都大学 教授）

小石正隆（横浜ゴム理事）

三宅隆（産業技術総合研究所 機能材料コンピューショナルデザイン研究センター チーム長）

高橋恒一（理化学研究所 生命機能科学研究センター チームリーダー）